

佳作

自分を創造する

岩手県一関市立桜町中学校

3年 米内 琴音

私は、泣き虫です。正確には、負けず嫌いといいます。負けたり、後悔があったり、納得できなかつたりすると、涙が出てきてしまうのです。私は、こんな自分が嫌いです。だから、勝つために、後悔しないために、納得できるように、全力で頑張ります。私は、頑張っている自分を唯一好きになれます。

私は、感受性が豊かです。小さなことにとても感動したり、小さなことに傷つきやすかつたりします。周りからしたら、「なんで?」「どうして?」と思うことも多い面倒な人でしょう。しかし、ポジティブに考えれば、「琴の音色のように、感受性豊かで、優しく、穏やかに生きてほしい」という両親の願いに答えていると考えることもできます。

こんな私が、今までにないほどの「エネルギー」を持って取り組んできたことは、部活動です。

中学1年生の入学して間もない頃、私は、バレーボール部に入部しました。同級生の二人は、小学生の時からバレーボールをしていて、とても上手でした。しかし、私は、中学校からのスタートのため、圧倒的に遅れをとっていました。「すぐに上手になるわけではない」と分かっているけど、できない自分が悔しくて、泣きながら練習した日もありました。

私が、本格的に試合に出られるようになったのは、1学年上の先輩の引退後でした。今までのベンチでの応援から、自分が、試合に出られるようになって、バレーボールの楽しさが増し、できることも増えました。私たちは「中総体地区優勝、県大会ベスト4、東北大会出場」を目標として、練習に臨みました。毎日のように上達し続けることは、難しいからこそ、毎日、良かったことも、悪かったことも振り返るようにしました。時々、チーム内で、ぎくしゃくしたり、対立したりすることもありました。それでも、一つの目標が私たちを一つにしてくれました。

地区中総体当日。みんなと「笑顔でプレーしよう」と約束しました。笑顔の力に後押しされ、決勝戦まで勝ち進むことができました。しかし、決勝戦では、自分たちのバレーをすることができませんでした。今まで以上に緊張し、笑顔が減りました。ミスが増え、失点が続きました。悪い流れを断ち切れず、結果は、準優勝。みんな、悔しく、泣き崩れていました。それでも、幸せなことに県大会出場は、決まっていました。

地区中総体を終えて、大事な場面でのミスが多かったり、連続失点時の雰囲気が悪かったりしたと反省しました。笑顔が力になっていることも実感できました。笑顔を大切にしつつ、緊張感をもって練習しました。味わった悔しさが力となりました。

県中総体当日。相手は、今まで対戦したことのないチームでした。攻撃しても、相手がうまく、拾われてしまいます。それでも、みんなでつないで、最後まで戦いました。結果は、2対0で負け。「みんなと勝って、みんなで笑いたかった」もう、みんなとプレーできないことに悔しさを覚えていました。私が、今までにないほどの「エネルギー」を持って取り組んできた部活動が終わりました。

部活動。たった5音、たった3文字の誰でも知っているであろう言葉です。しかし、私が、今までで一番「エネルギー」を持って取り組んだものです。泣き虫な私が、たくさん泣いた部活動。負けず嫌いな私が、全力で頑張った部活動。自分が嫌いな私が、唯一自分を好きになれた部活動。仲間とたくさん泣いたり、笑ったり、ぶつかったり、悩んだりしたのも、部活動です。楽しいことばかりではありませんでした。苦しいことやうまくいかないこともたくさんありました。そこから、逃げずに自分を強くしてくれたのが部活動です。指導者や保護者をはじめとする多くの方々の支えの下、仲間とかけがえのない時間を過ごすことができました。私は、幸せ者です。小さなことにも、感謝を忘れず、生活します。そして、人に「エネルギー」を与えたり、人を幸せにできる人になります。